

文の成分 修飾と被修飾の関係

例文「夏の」などのように、体言（「太陽（が）」 名詞などで主語になることができる言葉）を修飾する言葉を連体修飾語といい、「ぎらぎらと」などのように、用言（「かがやく」 動詞・形容詞・形容動詞などの述語となることのできる言葉）を修飾する言葉を連用修飾語といいます。

例 夏の 太陽が ぎらぎらと かがやく。

問 次の文の [] 部のことは修飾語です。それは(A)連体修飾語ですか、(イ)連用修飾語ですか。() にア・イの記号で答えを書きなさい。

- 1 弟は [きのう] 遠足に 行った。 () ()
- 2 ゆっくりと [船]が 港に 近づく。 () ()
- 3 [うち]には 犬が 一匹 いる。 () ()
- 4 [わたしの] 家には 池が ある。 () ()
- 5 [明日]、[デパート]へ 買い物に 出かける。 () ()
- 6 彼女の [やさしい] しぐさを 見る。 () ()
- 7 あたたかい [春の] 風が ふく。 () ()
- 8 弟は [めったに] 病気を しない。 () ()
- 9 [あの] チームは とても 強い。 () ()